

# 妙安寺だより

テレフォン法話 092(751)6084

## 冬至(とうじ)とカボチャ

『冬至(とうじ)』は毎年、12月22日か23日にあたります。(本年は21日) 24節気のひとつで、太陽の黄経が270度に達する時です。日本では、暑い夏の始まりを「夏至(げし)」、冬の始まりを「冬至(とうじ)」と呼んでいます。

ちょうどこの時期は、季節の移り変わりで、健康に影響があるので、いろいろと生活上の注意が必要であった。

まず食べるものに気をつけ、着物を着替え、寝具を取り替えるという時期でもあります。

「冬至」は、「夏至」と同じように、昼と夜とが同じ時間であり、これから一日のうち昼が短く夜が長くなります。

昔の人は、次の日から日が長くなっていくことを祈り、物忌み(ものいみ)と行って行いを慎みました。これが「冬至」の行事の起源です。

この日が来ると、人々は寒さに対する準備をしなければなりません。そこで、この日には、できるだけ珍しいものを食べる習慣が生まれ、特に、冬に向かって体力をつけるためには、栄養のあるものを食べる必要がありました。

今では、カボチャを食べるならわしだけが残っていますが、この名の由来は、原産地がカンボジャなのでカボチャといい、中国の南京を経て日本にやってきたので、南京(なんきん)とも言います。

昔は珍しい食べ物で、しかも高カロリーで保存に耐えるので、冬に備えて残しておいたものです。

農村では古来、農業行事の一つとして、この日は、餅をついて、酒を飲み交わし、珍しいものをいろいろと食べ、仕事も休み、村全体の行事を慎み、家で清浄な日を送っていました。

**※二十四節気とは** 季節の変化を知るために、一年を24等分にして、季節の移り変わりを分かりやすくしたものです。

## 除夜の鐘

仏教では、人間に108の煩惱があるとされています。煩惱とは、私たち人間には、食欲・性欲・生命欲・財産欲などのいろいろな欲望、悩みや執着をもっているということです。

108ということは、数が108あるということではなく、数が多いという意味で、それを一年の終わりに、すっかり払い落として、新しい年を迎えようというわけなのです。

「除夜の鐘」は、インドにも中国にもなく、日本独特なもので、もともとは、神社で行なっている大祓(おおはらい)の形が変わったものと考えられます。大祓とは、大晦日に人形を流したり焼いたりして煩惱を除いていました。

お寺の鐘には、周りにイボイボがついていますが、その数が108あって、それを突くことによって、108の煩惱が突き出されてなくなってしまうという信仰ができたのです。

## 勉強会の案内

**12月18日(木) 午後1時より 「立正安国論」を読む**

\*持参品 筆記用具 お経本(緑の表紙) 数珠 「立正安国論」の本

## 平成21年度地涌の声 功德主の募集

平成21年度の地涌の声の功德主を募集いたします。 功德料は、1月につき(300枚) 5,000円です。

1月・2月・6月・8月については申し込み済みです。「地涌の声」は寺報に同封して檀信徒へ送付しております。

## 平成21年度 護持会会費の納入のお願い

平成21年度の護持会会費(護持会会費 7,000円 墓地管理費 3,000円)の納入、よろしくお願ひ申し上げます。 なお、護持会の年度は、1月より12月までとなっております。

平成20年度の護持会会費未納の方は、納入の程よろしくお願ひいたします。

